

「イタクワケセツバ障害者支援施設用電動式介護ベッド機材整備計画」 供与式

去る6月1日(日)午後12時より、「イタクワケセツバ障害者施設用電動式介護ベッド機材整備計画」に係る希望の家福祉協会への我が国の草の根・人間の安全保障無償資金協力の供与式を行いました。式典には福嶋教輝在サンパウロ日本国総領事、ジャイロ・ウエムラ／希望の家福祉協会理事長、ジョージ・ハトウ／サンパウロ州議会議員、アウレリオ・ノムラ／サンパウロ市議会議員、マモル・ナカシマ／イタクワケセツバ市長、他約1000人が出席しました。

会場:希望の家福祉協会 <Sociedade Beneficente Casa da Esperança>

住所:Travessa Hideharu Yamazaki s/nº da Estrada do Tronco - Itaquaquecetuba - SP

来賓の挨拶:

- ・ウエムラ理事長は、「希望の家福祉協会の身体障害者は高齢化が進み、高血圧、糖尿病を患う入居者数が増えている。そのため、電動式介護ベッドの必要性が生じていた。日本国政府の協力で電動式介護ベッドを購入できたことに感謝したい。このような協力は我々の活動の励みになるとともに身体障害者らを支援するやりがいを感じる。あらためて、この協力を頂いたことに日本政府へ感謝の気持ちと敬意を表したい。」と謝辞を述べました。
- ・福嶋総領事は、「この度の我が国の協力に電動式介護ベッド機材が整備されることで、障害者の快適で安全な生活の手助けとなることは我々にとって大きな喜びであり、この協力を通じて日本とブラジル日系社会の繋がりがより一層深まる機会になれば嬉しく思う。」と挨拶しました。
- ・ナカシマ市長は、「私は、過去に医師として希望の家福祉協会に10年間努めた。イタクワケセツバ市長として様々な身体障害者施設を見て回る機会があるが、このような入居者のことを第一に考える素晴らしい施設はない。この度の協力は、ウエムラ理事長や各理事の方々が普段から入居者達のことを考え、生活の改善について努力された成果だと思っている。支援してくれた日本政府に感謝する。」と述べました。
- ・ハトウ州議会議員は、「希望の家福祉協会に支援を行った日本政府の行為には敬意を表する。また、団体を支援する方々や、職員の皆様へも敬意を表したい。」と述べました。
- ・ノムラ市議会議員は、「このような活動を行う日本国政府は尊敬に値する。ブラジル日系社会の一員としてこの協力を感謝する。」と挨拶を行いました。

供与式写真



(開会式)



(供与式出席者)



(ウエムラ理事長(左)及び福嶋総領事(右)による ODA プレート序幕)

○上記案件のプロフィール

案件名:「イタクワケセツーバ障害者支援施設用電動式介護ベッド機材整備計画」

被供与団体:「希望の家福祉協会」

プロジェクト実施地:サンパウロ州イタクワケセツーバ市

契約書名式日:2014年1月16日

供与額:約 115,966.00 レアル

案件の概要:希望の家福祉協会は1970年に設立され、現在は73名の知的・身体障害者の保護、教育及び医療的サポートを行っています。当初日系人の心身障害児童の保護を目的に運営を開始しましたが、その後右児童の成長に合わせて大人の収容者も増え、また非日系ブラジル収容も開始し、現在に至っています。障害者が使用しているベッドは寄付された木製のベッドが主ですが、破損も顕著であることから鉄製の介護ベッドに変える必要がありました。また、ベッドから障害者が転落する等の事故があったほか、自分で起き上がることが困難な障害者には昇降機能の付いた電動式介護ベッドが必要となっていました。今回の協力は、同団体の障害者に対し、電動式介護ベッド一式(22台)の整備に53,469米ドルを限度に無償資金供与を行うもので、障害者の快適で安全な療養を可能にするものです。

供与品目:22台電動介護ベッド